

JA全農ウィークリー
WEEKLY

JA全農 平成30年度事業報告の概要

(経営企画部)

4-5面

2面

世界各国から集まった子どもたちに果物を提供

福島市でWCBF世界少年野球大会開催(広報・調査部)



第29回世界少年野球大会で参加した子どもたちを激励する世界少年野球推進財団の王貞治理事長(2面)



JA直売所巡回で商品状態などをチェックする参加者(2面)



JA全農 平成30年度事業報告の概要(4-5面)



- 2 直売所職員が県内のJA直売所
巡回研修(神奈川県本部)
- 3 JAズームイン(JA白山)
- 6 青果情勢(園芸部)
- 7 畜産情勢(畜産総合対策部)
- 8 おむすびキッズコンテストに協賛
レシピを大募集!(米穀生産集荷対策部)

JAタウンショップ紹介

酪農王国オホーツクおこっぺ
(北海道・JA北オホーツク)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

**一輪車選手の夢の実現を応援！
全日本一輪車競技大会
(トラックレース部門) に協賛
(広報・調査部)**



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちらから



News!



直売所職員が県内のJA直売所巡回

現場目線で情報共有、店舗改善のきっかけに

神奈川県本部



視察先の直売所で商品状態などをチェックする参加者



利用者の目を引くような手書きPOPは「真似したい」という声が続出

神奈川県本部は7月9日、JA直売所店舗巡回を実施し、県内6JA直売所から13人の店舗職員やパート職員が参加しました。毎年恒例の研修会ですが、店長以外の従業員を対象とするのは初の試みで、現場ならではの視点から生まれた意見を、魅力的な直売所づくりに生かしていく考えです。

当日は、3カ所の直売所を巡回し、「接客力」「値ごろ感」「鮮度感」「売り場構成」など20項目を採点しながら、各店舗の見習いたい部分や改善すべき点を評価しました。

できて、刺激を受けた「普段の業務で抱えている悩みを共有できて良かった」など満足した様子でした。

店長との質疑応答では、集客のためのイベント企画や端境期の品ぞろえ対策の質問など、活発な意見交換となりました。

県内JA直売所を取り巻く事業環境は、高齢化による出荷者の減少や品ぞろえの低下、近隣競合店の攻勢など厳しさが増しており、集客力や売上高は近年伸び悩んでいます。神奈川県本部は、新しいアイデアを生み出す場として、今後も店舗間交流を深め、人材育成支援を進めていきます。

News!



世界各国から集まった子どもたちに果物を提供

福島市でWCBF世界少年野球大会開催

広報・調査部



開会式であいさつをする王理事長

大会には世界14カ国・地域から135人の少年少女が参加。開校式ではWCBF理事長の王貞治氏が「たくさん友達を作りましょう。そして、1週間が無く、元気に盛り上がりましょう」と参加者を激励しました。

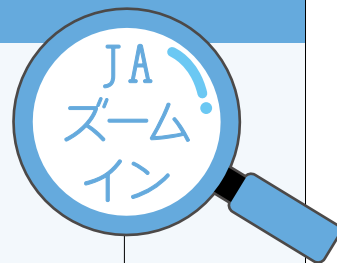
野球教室では野球の基礎を学び、国際交流試合では福島県内の6チームと招待した中華台北のチーム15人が熱戦を繰り広げました。また、食事の際には福島県産桃（あかつき）、青森県産メロン（タカミメロン）、山形県産スイカ、島根県産梨（幸水）、ブドウ（ピオーネ・巨峰）が食卓に並び、「オイシイ〜」という声とともに笑顔が弾けました。全農は今後も、子どもたちの夢や成長を応援していきます。

大会の模様は、9月1日（日）14時30分からNHK Eテレで放送予定です。



食事の時に日本の果物を盛り付けてもらう世界少年野球大会に参加した子どもたち

第29回世界少年野球大会 福島大会（主催…一般財団法人世界少年野球推進財団（WCBF）、協賛…全農ほか）が7月30日〜8月7日、福島市で開催されました。全農は、来日した世界各国の子どもたちにニッポンの果物を提供しました。



地域特性を生かし

農業者所得増大へ

JA白山は、白山市内の美川地区・鶴来地区・白山麓地区を管内とし、日本海から白山麓までの地域特性を生

かした生産に取り組んでいます。

**コシ中心に良質米生産
県内最大の良質種子産地**

管内の耕作面積は約1500畝で米が主要農産物です。当地は良質米の産地として、主食用米は「コシヒカリ」が中心、他には酒造好適米・もち米なども生産しています。転作はソバ・ダイズで、今年から麦の生産にも取り組みます。

中山間地域は県内最大の種子生産地です。昨年度の県内採種生産比率は水稻34%、大麦55%、大豆92%で、良質な種子採取のため栽培から収穫までの工程管理を徹底し、県内需要への対応に取り組んでいます。

**園芸作物生産も拡大
総合集出荷場を整備**

近年は米生産の偏重から園芸作物生産を拡大しており、重点生産物としてブロッコリー・ネギ・白山丸イモ・



機械など整備した総合集出荷場

ニンジンなどに取り組んでいます。昨年12月には総合集出荷場の整備を行い、園芸振興の拡大対策を進めています。

地域と地元生産者をつなぐ場として、平成27年6月に大型直売所「よらんかいねえ広場」をオープン。安全・安心な地元産直品を数多く提供しています。また、管内の園児や児童を対象に農業体験を開き、生産者やJA職員との交流を通じて「食」と「農」への理解促進を図っています。今年11月には、米の消費拡大を目的に、伝統食や米食の良さを認識して

産直品を求めて混み合う大型直売所「よらんかいねえ広場」



いただく、お米を中心とした「食フェスタ」を開催する予定です。

JA白山 (石川県)



概要 平成31年3月31日現在	
正組合員数	3770人
准組合員数	3020人
職員数	138人
販売品取扱高	10億7千万円
購買品取扱高	24億円
貯金残高	729億6千万円
長期共済保有高	2070億3千万円
主な農畜産物	米、ブロッコリー、ネギ、白山丸いも、ニンジン

JA全農 平成30年度事業報告の概要

【経営企画部】

事業概況

平成28～30年度の3か年において、3つの重点事業施策(①持続可能な農業生産・農業経営づくりへの貢献②海外事業の積極展開③元気な地域社会づくりへの支援)に加え、自己改革の取り組みについて、組合員・会員のため、グループ役職員が総力を挙げて着実に進めました。

持続可能な農業生産・農業経営づくりへの貢献

プロダクトアウトからマーケットインへ事業を転換

- 直接販売や買取米の拡大、および広域集出荷施設の整備や実需者等との出資・業務提携
- 加工・業務用の米・青果物等の実需者ニーズに基づく契約栽培の拡大
- グループ会社との商品開発、eコマース事業強化、外食・中食店舗の出店拡大

生産から販売までのトータルコスト低減

- 資材の銘柄・規格集約などによる物財費低減、およびICTなど生産性向上に資する技術の普及
- JA共同利用施設の有効活用に向けた総合コンサルの実施

農産物生産に係る多様化する農業者ニーズへの柔軟な対応

- 高生産性水田輪作体系の実証、および農作業受委託など労働力支援の実施
- 国際水準GAPの団体認証取得支援



イチゴのパッケージ作業を行う福岡県本部・県南VFステーション(平成30年11月稼働)



生産者の声を反映した低価格モデルの共同購入トラクター



労働力支援によるキャベツの収穫(大分県本部)

海外事業の積極展開

本会への結集による国産農畜産物の輸出拡大

- 輸出対策部の新設、およびJA全農インターナショナル(株)との輸出事業の一元化
- 海外拠点の整備、米の輸出用産地づくり、青果物リレー出荷による常設販売棚の確保
- 海外eコマースサイトへの出店
- 英国食品卸会社の買収や米国食肉卸会社との合併会社の設立など新たな販路拡大

肥料・飼料原料の安定調達に向けた取り組み

- 肥料原料(リン安など)の安定調達に向けた、中国の大手リン酸製造会社の増資引受による海外山元との関係強化
- 飼料原料の調達力強化に向けた、米国での船積能力の増強、ブラジルでの現地穀物集荷・輸出会社への出資による内陸集荷から輸出までの一貫体制の構築、カナダでの内陸集荷体制の整備



香港事務所設立記念式典(平成30年4月)



日本から輸出した牛肉の加工を行うP&Z FINE FOODS(米国)



船積能力を増強した全農グレイン(株)米国

元気な地域社会づくりへの支援

- JA生活店舗のコンビニなどへの業態転換や移動購買車の導入促進などによるライフライン対応強化
- 直売所を併設した大型Aコープ店舗(JAファーマーズ)の出店拡大
- SSのセルフ化促進、およびJAグループ施設・営農施設への電力供給拡大



ファミリーマートとの一体店舗



セルフSS

広域事業展開・再編や合理的な体制整備

- 農薬・農機部品などにおけるJA域・県域を越えた広域物流の取り組み拡大
- 農機事業などにおけるJAと本会による共同運営の拡充
- Aコープ会社の経営基盤強化に向けた広域再編
- 港湾・地域別の老朽化などの状況を踏まえた飼料工場の集約・再編や、系統飼料会社の子会社化による飼料供給体制の合理化



農業の広域物流拠点「中四国広域物流センター」(平成30年12月稼働)



3つの工場を集約したJA西日本くみあい飼料(株)倉敷工場(平成29年6月稼働)

職員の意識改革に資する取り組みなど

- 外部からの人材を役員などに招聘したほか、目標管理制度の改定や在宅勤務制度の試行など人事制度の見直し、積極的な本部間異動、および5年後、10年後を見据えた大幅な機構改革の実施
- 代表理事などと職員の意見交換や、表彰制度の拡充
- 本会事業の組織内外への積極的な情報発信
- 農業関係団体との対話による現場の意見を取り入れた事業運営



会長賞表彰式(平成30年12月)

経営概況

取扱高は、米穀農産事業では米の販売数量の減少、園芸事業では青果物販売価格の低下により計画を下回りましたが、生活関連事業において原油価格が高値で推移したことや、畜産事業における配合飼料原料の価格上昇等により、4兆5,925億円と、計画比100%となりました。経常利益は81億5,400万円、当期剰余金は41億8,700万円と、ともに計画を上回りました。

取扱高

(単位: 億円、%)

科 目	30年度 計 画	30年度 実 績	29年度 実 績	計画比	前年比
供給	12,959	13,428	13,664	104	98
販売	28,717	28,159	28,641	98	98
供給・販売計	41,676	41,587	42,305	100	98
原料供給	4,236	4,338	4,077	102	106
合計	45,912	45,925	46,382	100	99
〈事業別内訳〉					
米穀農産事業	7,505	6,932	7,181	92	97
園芸事業	11,879	11,288	11,643	95	97
営農・生産資材事業	8,042	8,054	8,118	100	99
畜産事業	10,229	10,462	10,485	102	100
生活関連事業	8,257	9,190	8,956	111	103
合計	45,912	45,925	46,382	100	99

経営収支

(単位: 百万円)

科 目	30年度 計 画	30年度 実 績	29年度 実 績	計画差	前年差
事業総利益	91,210	91,272	91,713	61	△440
(うち粗収益・原料収益)	85,967	84,150	85,736	△1,817	△1,586
事業管理費	94,721	94,493	92,466	△228	2,026
事業利益	△3,511	△3,221	△753	289	△2,467
その他経常損益	7,591	11,376	10,554	3,784	821
経常利益	4,080	8,154	9,800	4,074	△1,645
特別損益	219	△2,066	△2,019	△2,286	△47
税引前当期利益	4,300	6,087	7,780	1,787	△1,693
法人税・住民税および事業税	350	324	317	△25	7
法人税等調整額	500	1,575	2,706	1,075	△1,131
当期剰余金	3,450	4,187	4,756	737	△569
当期首繰越剰余金	2,300	2,272	2,293	△27	△21
積立金取崩額	1,750	1,946	4,883	△196	△2,937
当期末処分剰余金	7,500	8,406	11,934	906	△3,528

[青 果 情 勢]

(園芸部)



野 菜



果 実

東北・北海道や高冷地が出荷の中心

概況

8月は、東北・北海道や高冷地などが主産地となり、出荷最盛期を迎えます。

キャベツは、群馬・長野・岩手などの高冷地中心の出荷となります。7月は低温・日照不足から少ない出荷でしたが、梅雨明けに伴い好天が続く予報から、前年を上回る出荷量を見込みます。

ハクサイは、長野などが中心の出荷となります。昨年は高温・干ばつで小玉傾向でしたが、今年は前年を上回る出荷見込みです。

レタスは長野・群馬など高冷地が中心の出荷となります。7月の低温・日照不足から生育に遅れがみられますが、梅雨明けに伴い、安定した出荷となるでしょう。出荷量は、前年並みを見込んでいます。

ダイコンは、北海道・青森などが中心の出荷となります。北海道は適度な降雨と晴れ間があったことから、順調な生育となっています。出荷量は干ばつで少なかった前年を上回る見込みです。

ニンジン、北海道・青森などが中心の出荷になります。ダイコン同様、天候に恵まれ順調な生育となっています。出荷量は、干ばつで少なかった前年を上回る見込みです。

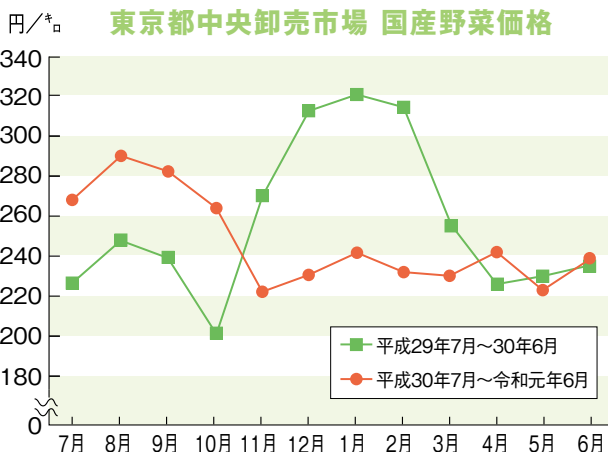
トマトは、北海道・東北産地が中心の出荷となります。梅雨明けとともに色回しも回復し、各産地出荷最盛期を迎えます。出荷量は、少なかった前年を上回る見込みです。

キュウリは、東北産地が中心の出荷となります。露地作中心の出荷となり、梅雨明けに伴い、潤沢な出荷が見込まれます。出荷量は、少なかった前年を上回る見込みです。

ナスは、関東産が中心の出荷となります。7月は低温・日照不足から少ない出荷量でしたが、花つきが良かったため、8月は前年を上回り潤沢な出荷を見込みます。

店頭

7月に引き続き、清涼感のあるレタス、トマト、キュウリなどのサラダ商材や、ミョウガ、小ネギ、大葉などの薬味商材の荷動きが活発になる時期です。この他、エタマメ、トウモロコシ、ゴーヤー、ナスなどの季節感のある商材が積極的に陳列されます。



主産県
だより

7月はキャベツ、ハクサイ、レタス、ブロッコリー、夏秋ピーマン、アスパラガス、梨の主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会等を定期的に開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。

夏果実の出荷ピーク

概況

8月は、出荷の後半となる桃・スイカ・メロン類に加え、ハウスミカン・梨・ブドウ・スモモが本格的な出回りとなります。

桃は、福島・山梨などが中心の出荷となります。生育は早かった前年より遅く、福島の「あかつき」、山梨の「川中島白桃」など、さまざまな品種が出回ります。出荷量は、山梨では昨年の台風や霜、日照不足の影響により、前年を下回る見込みです。福島では小玉傾向で少なかった前年を上回る見込みですが、全体では前年を下回る出荷量となる見込みです。

スイカは、山形・長野などが中心の出荷となります。山形はお盆にかけて出荷ピークとなり、長野も8月上旬がピークとなる見込みです。出荷量はおおむね前年並みとなる見込みです。

メロン類は、関東産地から北海道・青森などに切り替わります。生育は順調で、出荷量はおおむね前年並みとなる見込みです。

ブドウは、「デラウェア」が山形、大粒品種が山梨・長野などが中心の出荷となります。大粒品種は「巨峰」や「ピオーネ」などの品種が出回ります。ピークは8月上旬となる見込みで、出荷量はおおむね前年並みとなる見込みです。

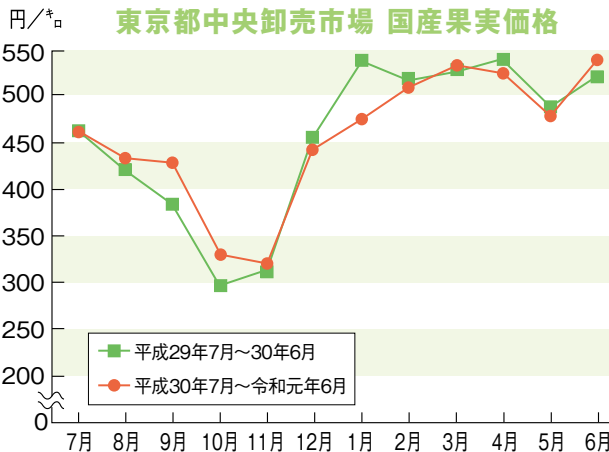
梨は、福岡などの九州産地、千葉・茨城などが中心の出荷となります。生育は早かった前年と比べるとやや遅れ気味で、関東産「幸水」のピークは8月中旬となる見込みです。出荷量はおおむね前年並みとなる見込みです。

ハウスミカンは、佐賀・愛知・愛媛などが中心の出荷となります。今年は生育が前進傾向で7月の出荷量が多かったことから、8月の出荷量は前年をやや下回る見込みです。

リンゴは、8月より長野・岩手などから今年産の出荷が始まります。出荷量はおおむね前年並みとなる見込みです。

店頭

旧盆や夏休みなどがテーマとなった売り場作りが行われる8月は、量販店や果実専門店の売り上げが1年の内で一番多い月です。販売方法も1品目で複数の規格の品ぞろえをするにぎやかな売り場となります。



[畜 産 情 勢]

(畜産総合対策部)



牛 肉

和牛もちあい、交雑牛やや堅調

7月の成牛と畜頭数は速報値で、約9万3千頭(前年比98.0%)と前年を下回りました。

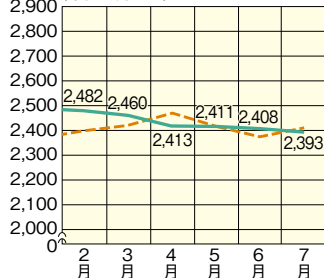
7月の東京市場枝肉卸売価格は、速報値で和牛去勢A5が2707円(前年比96.3%)、和牛去勢A4が2393円(同99.3%)、和牛去勢A3が2183円(同100.9%)、交雑牛B3が1638円(同107.6%)、乳牛去勢B2が1024円(同95.3%)でした。

農畜産業振興機構が公表した8月の国内出荷予測頭数を品種別にみると、和牛が約3万6千頭(前年比106.1%)、交雑牛が約1万8千頭(同93.1%)、乳用種が約2万7千頭(同95.0%)で、全体では約8万3千頭(同99.2%)と見込んでいます。

7月の枝肉相場は、エンドユーザー需要の鈍さから和牛はやや弱含みからもちあいで推移し、交雑牛は出荷頭数が少ないこともあり、堅調相場を維持しました。

8月の枝肉相場は、和牛はもちあい、交雑牛は出荷頭数が少ないこともあり、やや堅調な動きとなるとみられます。

牛枝肉相場(東京市場・和牛去勢A-4)
平成31年2月～令和元年7月
平成30年2月～30年7月
(単位: 円/キログラム)



豚 肉

弱含みで推移

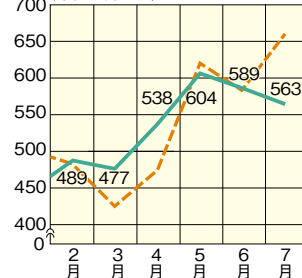
7月の全国と畜頭数は、速報値で約138万頭、前年比108.5%です。

7月の東京食肉市場枝肉相場は、速報値で563円/kg(前年比86.5%、前月比95.6%)となりました。梅雨寒となった7月は、良好な育成状況を受けた出荷前倒しに加え、需要も振るわず、相場は下旬に大きく下落しました。

農畜産業振興機構発表の8月出荷予測頭数は、約127万頭(前年比96.2%)と予測しています。

8月は、気象庁の予想によると全国的に暑い日が続くことが予測されており、前月まで前倒し気味で出荷された肉豚も、しばらくの間出荷が鈍化することが見込まれます。他方、需要面では引き続き輸入チルドポークの販促が展開されること、また、前月の荷余り感と20万トンを超える推定期末在庫を背景に、国産豚肉の荷動きは引き続き厳しい状況が予測され、7月下旬以降軟調に転じた相場は、お盆の手当てを見越して多少の上昇はあるものの、大きな流れとしては弱含みで推移していくものと予測します。

豚枝肉相場(東京市場規格「上」)
平成31年2月～令和元年7月
平成30年2月～30年7月
(単位: 円/キログラム)



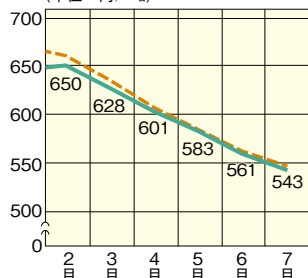
鶏 肉

もも肉下げ基調、むね肉もちあい圏内

7月の平均相場は、もも肉543円/kg(前月比18円下げ)・むね肉222円/kg(同4円下げ)、正肉合計で765円/2kgと前月比22円下げで前年比でも48円の下げとなりました。今年は梅雨明けが遅く、記録的な日照不足もあり野菜の高騰などで消費に影響したと思われます。もも肉は月初め554円から、下げ基調となり月末は537円となりました。むね肉は、加工向けには一定需要はあるものの、月初224円・月末218円とほぼもちあい圏内で推移しました。

8月は、気象庁の1カ月予想では、気温は全国的に平年より高く、特に上旬は高い確率で80%となっています。夏休みで給食需要もなく、お盆前に多少の引き合いも考えられますが、猛暑による消費減退でもも肉の下げ基調は変わらず月平均で530円と予測します。むね肉については、加工やサラダ向けなど加工筋の引合いも堅調でもちあい圏内の225円と予測します。

ブロイラー市況(もも肉・東京)
平成31年2月～令和元年7月
平成30年2月～30年7月
(単位: 円/キログラム)



鶏 卵

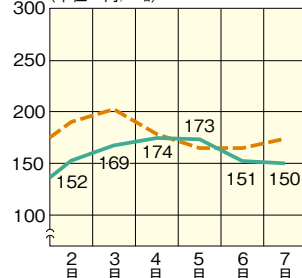
昨年より低い状況続く見込み

7月の東京相場の月間平均は、Mサイズ基準値150円(前年比△23円)となりました。サイズによっては強含みの展開も見られましたが、Mサイズに関してはもちあいの展開が続きました。

7月上旬は、夏季のボイル需要を見越して小玉の引き合いが瞬間的に強まり小玉高の展開となりましたが、梅雨寒が続いたことで小玉需要はすぐに一服しました。梅雨明け後の下旬以降は、全国的に気温が急上昇したことから、大玉が逼迫(ひっぱく)し、大玉高の展開となりました。

今後については、成鶏更新・空舎延長事業が続いていることに加え、全国的に猛暑が続いていることから大玉サイズの供給不足が見込まれます。ただし、需要面に関してお盆期間までは好材料に乏しい状況であることから、相場展開については前月と同様に昨年より低い状況が続くことが推測されます。

鶏卵相場(東京・Mサイズ基準)
平成31年2月～令和元年7月
平成30年2月～30年7月
(単位: 円/キログラム)



子どもたちのおむすびレシピを大募集!

おむすびキッズコンテストに協賛

全農が協賛する「おむすびキッズコンテスト」のおむすびレシピ募集が、7月に始まりました。【米穀生産集荷対策部】

このコンテストは、一般社団法人 家の光協会とJA全国女性組織協議会が主催し、小学生を対象に、子どもたちが考えたおむすびのレシピを募集しています。アイデア、おいしさ、作りやすさの完成度などを総合的に判断して賞を決定します。

なじみのあるおむすびをテーマにすることで、子どもたちに米を基軸とした和食文化継承の意義、米の消費拡大や地産地消の大切さに対する理解を促すことを目的としています。

応募の締め切りは10月31日となっています。詳しくは、家の光公募サイトをご参照ください。



全農は、国産米の消費拡大のため、今後もお米に関するさまざまなイベントへの協力を実施します。



食と農のWEBマガジン

Apron
エプロン

Web限定の「レシピ検索」「菜園づくり」etc.ぜひご覧ください!

Webマガジンは
こちらから

Apron Web

検索

<https://apron-web.jp/>



JAタウン |

検索
クリック

酪農王国オホーツクおこっぺ (北海道・JA北オホーツク)



国道238号沿いの興部市街地にアイスの直売店があります。ソフトクリームやシェイクも販売しています

JAタウンは
こちらから



おこっぺアイス12個セット
(6種各2個).....5170円

「おこっぺアイス」のおこっぺとは北海道のオホーツク海に隣接するに小さな町の名前で、「興部」と書きます。興部町は、人口3800人に対し乳牛が1万2000頭。酪農業が盛んで、海と山に囲まれたのどかな大地で多くの牛たちがゆったりと暮らしながら生乳を生産してくれています。

その生乳の中から、さらに厳選された酪農家の生乳を主原料として100%使ったアイスが「おこっぺアイス」です。安定剤、乳化剤などを使っていないので、原料のおいしさをそのまま楽しんでいただけます。

定番のバニラ、牛乳好きにはミルク、子どもに人気のココア、上品な抹茶味、北海道ならではの甘酸っぱいハスカップとリッチな果汁の夕張メロン味の6種類の詰め合わせです。

まだまだアイスクリームのおいしい季節、ご自宅用や贈答品としてぜひ、おこっぺアイスを。

JA全農のインターネット
ショッピングモール

▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。